資料　1

令和5年度（2023年度）北海道ふるさと・水と土指導員名簿

令和5年5月 現在

№.	局 名	市 町 村 名	氏　　名	職　業　等	主　な　活　動	推 薦 者	任　　期	備考
1	空知	岩見沢市	小西　泰子	農業	地域活動全般	市長	令和6年3月31日	
2	空知	三笠市	赤坂　卓也	農業	地域活動全般	市長	令和6年3月31日	
3	空知	栗山町	金丸　大輔	地方公務員	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
4	空知	栗山町	菅野　義樹	農業	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
5	空知	沼田町	池内　孝司	団体職員	環境整備指導等	町長	令和6年3月31日	
6	石狩	札幌市	髙瀬　徹	会社員	環境整備活動等	土地連	令和8年3月31日	
7	石狩	石狩市	阿岸　哲広	改良区職員	環境整備指導等	土地連	令和6年3月31日	
8	後志	蘭越町	黒川　利光	農業	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
9	胆振	厚真町	尾谷　純司	改良区職員	環境整備指導等	土地連	令和6年3月31日	
10	胆振	洞爺湖町	青山　伸子	農業	地域活動全般	町長	令和8年3月31日	
11	日高	日高町	田中　義光	農業	地域活動全般	町長	令和8年3月31日	
12	日高	浦河町	中川　貢	団体職員	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
13	日高	浦河町	以西　明美	自営業	地域活動全般	町長	令和8年3月31日	
14	日高	浦河町	西　利明	改良区職員	環境整備指導等	土地連	令和6年3月31日	
15	渡島	知内町	佐藤　暁樹	住職	自然観察指導	町長	令和6年3月31日	
16	渡島	知内町	笠松　悦子	農業	農産物加工販売等	町長	令和6年3月31日	
17	渡島	七飯町	田中　いずみ	会社役員	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
18	渡島	八雲町	小林　石男	農業	地場産品加工直売	町長	令和6年3月31日	
19	檜山	江差町	小笠原　明彦	団体嘱託員	農村景観・農作業体験指導	土地連	令和7年3月31日	
20	檜山	上ノ国町	吉見　俊彦	無職	農村環境・景観保全活動等	土地連	令和8年3月31日	
21	檜山	厚沢部町	佐々木　俊司	会社役員	地域活動全般	土地連	令和6年3月31日	
22	檜山	せたな町	富樫　一仁	農業	地域活動全般	土地連	令和7年3月31日	
23	上川	幌加内町	中村　雅義	農業	地域活動全般	土地連	令和6年3月31日	
24	上川	鷹栖町	中江　正博	改良区職員	地域活動全般	土地連	令和7年3月31日	
25	上川	当麻町	小野寺　孝一	無職	地域活動全般	土地連	令和6年3月31日	
26	上川	上川町	辰巳　明美	農業	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
27	上川	中富良野町	久保　照美	花卉卸し販売	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
28	上川	南富良野町	岩永　かずえ	農業	農産物地産地消活動等	町長	令和8年3月31日	
29	上川	南富良野町	鷹嘴　充子	会社役員	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
30	上川	南富良野町	小野　寿樹	地方公務員	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
31	上川	南富良野町	大光明　宏武	地方公務員	地域活動全般	町長	令和8年3月31日	新規
32	留萌	小平町	長澤　政之	地方公務員	自然体験指導	町長	令和7年3月31日	
33	留萌	小平町	髙野　幸子	農業	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
34	留萌	苫前町	福田　怜也	改良区職員	環境整備活動等	町長	令和8年3月31日	
35	宗谷	稚内市	加藤　八重子	農業	地域活動全般	市長	令和6年3月31日	
36	宗谷	豊富町	嘉藤　慎	会社員	地域活動全般	町長	令和8年3月31日	新規
37	ｵﾎｰﾂｸ	北見市	馬渕　陽子	農業	農産物直売等	市長	令和6年3月31日	
38	ｵﾎｰﾂｸ	北見市	黒須　倫子	農業	地域活動全般	土地連	令和6年3月31日	
39	ｵﾎｰﾂｸ	美幌町	午来　博	地方公務員	地域活動全般	町長	令和8年3月31日	
40	ｵﾎｰﾂｸ	津別町	佐野　多希子	農業	地域活動全般	町長	令和8年3月31日	
41	ｵﾎｰﾂｸ	清里町	柳谷　亜紀子	農業	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
42	ｵﾎｰﾂｸ	湧別町	久保　美恵子	酪農業	地域活動全般	町長	令和8年3月31日	
43	ｵﾎｰﾂｸ	興部町	仲元寺　恒平	団体職員	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
44	ｵﾎｰﾂｸ	雄武町	石井　恭子	会社員	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
45	十勝	帯広市	伊藤　由紀子	酪農業	地域活動全般	市長	令和7年3月31日	
46	十勝	鹿追町	髙橋　貴子	会社員	地域活動全般	町長	令和8年3月31日	
47	十勝	本別町	岡崎　慶太	会社役員	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
48	十勝	本別町	谷口　まどか	管理栄養士	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
49	釧路	厚岸町	髙橋　美佐子	無職	地域活動全般	町長	令和8年3月31日	
50	釧路	鶴居村	服部　政人	団体職員	都市農村交流等	村長	令和7年3月31日	
51	釧路	鶴居村	水本　梨佳	酪農業	地域活動全般	村長	令和8年3月31日	
52	根室	別海町	水沼　和子	無職	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
53	根室	別海町	渡邊　広美	酪農業	地域活動全般	町長	令和8年3月31日	

令和5年度（2023年度）北海道ふるさと・水と土指導員名簿

令和5年5月　現在

ブロック	委員（市町村）、◎会長、〇副会長、△幹事、アンダーラインは女性					
道央14名	空知5名	小西　泰子	（岩見沢市）	後志1名	黒川　利光	（蘭越町）
		赤坂　卓也	（三笠市）	日高4名	田中　義光	（日高町）
		金丸　大輔	（栗山町）		中川　貢	（浦河町）
		菅野　義樹	（栗山町）		以西　明美	（浦河町）
		池内　孝司	（沼田町）		西　利明	（浦河町）
	胆振2名	△尾谷　純司	（厚真町）	石狩2名	髙瀬　徹	（札幌市）
		青山　伸子	（洞爺湖町）		◎阿岸　哲広	（石狩市）
道南8名	渡島4名	佐藤　曉樹	（知内町）	檜山4名	小笠原　明彦	（江差町）
		笠松　悦子	（知内町）		△吉見　俊彦	（上ノ国町）
		田中　いずみ	（七飯町）		佐々木　俊司	（厚沢部町）
		〇小林　石男	（八雲町）		富樫　一仁	（せたな町）
道北14名	上川9名	中村　雅義	（幌加内町）	留萌3名	長澤　政之	（小平町）
		中江　正博	（鷹栖町）		△髙野　幸子	（小平町）
		△小野寺　孝一	（当麻町）		福田　怜也	（苫前町）
		辰巳　明美	（上川町）	宗谷2名	加藤　八重子	（稚内市）
		久保　照美	（中富良野町）		嘉藤　慎	（豊富町）
		〇岩永　かずえ	（南富良野町）			
		鷹嘴　充子	（南富良野町）			
		小野　寿樹	（南富良野町）			
		大光明　宏武	（南富良野町）			
道東17名	ｵﾎｰﾂｸ8名	△馬渕　陽子	（北見市）	十勝4名	伊藤　由紀子	（帯広市）
		黒須　倫子	（北見市）		△髙橋　貴子	（鹿追町）
		午来　博	（美幌町）		岡崎　慶太	（本別町）
		佐野　多希子	（津別町）		谷口　まどか	（本別町）
		柳谷　亜紀子	（清里町）	釧路3名	髙橋　美佐子	（厚岸町）
		久保　美恵子	（湧別町）		〇服部　政人	（鶴居村）
		仲元寺　恒平	（興部町）		水本　梨佳	（鶴居村）
		石井　恭子	（雄武町）	根室2名	水沼　和子	（別海町）
					渡邊　広美	（別海町）

計53名

（別紙様式）

資料 ２

中山間ふるさと・水と土保全対策事業
中山間ふるさと・水と土保全推進事業

事 業 実 施 計 画

計画期間：令和２年度～令和６年度

（令和５年度）

計　画　内　容

１．事業実施の基本方針

２．事業計画

３．事業実施の成果目標と実績

４．事業評価と対応

北海道

１．事業実施の基本方針

目標年度	令和６年度
現状と課題	本道の農村は、農家戸数の減少や高齢化の進行などが続いており、コミュニティ機能が脆弱化し、地域の活力の低下が顕在化している。 特に、中山間地域においては、農地の立地条件が悪く、生活環境等の定住条件にも恵まれないため、過疎化・高齢化が進み、担い手への農地集積が進まず遊休農地が増加するなど、農業生産活動の停滞はもとより、地域のコミュニティ機能や農業・農村の多面的機能の発揮に支障を来している状況にある。 このため道では、農地や土地改良施設、自然環境、景観など地域の多様な資源を活かして、生態系の保全整備や都市との交流、地域の特色ある料理の開発など様々な活動を促進してきたが、地域住民が主体性を持ち持続的に活動に取り組む地域の確立に向けて気運の醸成とモデル的な活動事例の創出が必要である。
事業実施の 基本方針	本事業では、農地や土地改良施設、自然環境、景観、伝統文化などの多様な資源を発掘し、これら資源を地域住民が主体性を持って活かした多様な活動をモデル的に実施することでその効果を検証する。 具体的な方法としては、地域の現状把握や住民意識の醸成、明確な目標を設定した３年程度の活動計画の策定、計画に基づいた実践活動、活動の評価・検証などの地域住民による主体的な取組を支援することにより、住民の自立意識を醸成し、継続性を持った効果的な住民活動が実施されるよう促す。 また、こうした住民活動を全道に広げるとともに、地域の様々な資源を活用した多様な住民活動を実践・指導する人材として、ふるさと・水と土指導員を委嘱し、現地見学や研修会等の意見交換の場を通して、住民活動の手法や活動意欲をこれまで以上に高め、今後の地域づくりを担う人材として、その育成に努める。 全道各地で住民活動の活性化を図る観点から、ＨＰや情報誌の発行などを通して、本事業における取り組みとその成果を全道に普及する。
事 業 実 施 計 画	全道各地で地域の多様な資源を活かし住民活動が発展・継続することにより、中山間地域におけるコミュニティ機能を維持し、地域再生や地域活性化を図る。ひいては、農業・農村の有する多面的機能を良好に発揮することを目指す。

２．事業計画

事業（取組）名	事業（取組）内容	達成すべき目標との関連	事業実施要綱上の該当項目	５ヶ年間の事業(量)内容	総事業費
地域活動支援事業	道内における地域住民活動の活性化を図るため、他の地区のモデルとなるような多様な地域資源を活かした住民活動を支援する地域活動支援地区をモデル的に支援することでその効果を検証する。	①	ふる水 第3-2-(1) 棚田 第3-2-(1) 第3-2-(2)	地域の現状を把握し、住民の地域づくりへの意欲を醸成するため、住民の意識調査やアドバイザーを招いた勉強会などの開催、その後の地域住民活動の目標と具体的な活動内容等を定めた３年程度の活動計画の策定、計画に基づく実践活動、活動のステップアップを図るための評価・検証など地域住民が主体となった取組の支援を５ヶ年で１０地区程度実施する。	
人材育成	活動の実践と地域住民活動の活性化に向けた指導・助言等を行う人材として、北海道ふるさと・水と土指導員を育成する。	②	ふる水 第3-2-(2) 棚田 第3-2-(1) 第3-2-(2)	多様な地域住民活動を実践・指導する人材として北海道ふるさと・水と土指導員を委嘱し、指導員相互の情報交換と地域づくりの手法等習得のための研修会や現地研修会を５ヶ年で２０回程度開催する。 また、地域住民活動の活性化を図る地域をさらに広げるため、５ヶ年で１０人程度新たに指導員を委嘱する。	
推進事業	事業の円滑な執行と効果的な推進、地域住民活動の拡大を図る取組を行う。	③	ふる水 第3-2-(3) 棚田 第3-2-(1) 第3-2-(2)	事業の進捗状況に応じた効果的な助言を得て、事業の推進を図っていくため、５ヶ年で１０回程度委員会を開催する。 また、事業の成果や農業・農村が持つ多面的機能の役割が広く道民に理解され、住民意識の向上や道内各地における住民活動が活発化するよう、市町村や各種活動団体に対し、５ヶ年で１０回程度、独自の情報誌を発行するほか、適宜事業の制度説明や活動事例の提供を行う。	

		令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	
中山間ふるさと・水と土保全対策事業費（ふる水と土基金）	計画事業費	13,630	13,618	13,701	13,701		
	（実績額）	3,647	3,480	7,267			
中山間ふるさと・水と土保全推進事業費（棚田基金）	計画事業費	780	782	699	699		
	（実績額）	780	782	699			

３．事業実施の成果目標と実績

達成すべき目標		指標	基準値	目標値	年度ごとの実績					達成度	
					令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度		
①	地域活動支援事業	多様な地域資源を活かした住民活動を支援する地域活動支援地区数		１０地区	2地区	1地区	0地区				
②	人材育成	指導員等の資質向上のための研修会等の開催数		２０回	２回	２回	５回				
		指導員の委嘱人数		１０人	４人	７人	２人				
③	推進事業	事業の推進に係る効果的な助言を得るための委員会の開催数		１０回	2回	2回	2回				
		情報誌の発行回数		１０回	2回	1回	1回				

４．事業評価と対応

達成すべき目標		事業実績の評価		備考
		外部有識者の所見	所見を踏まえた改善方針	
①	地域活動支援事業	・新規の候補地区はあったものの、新型コロナウイルスの影響で活動自体が自粛といった影響もあり、意識醸成にいたっていないことは理解できたが、今後も引き続き新規地区の掘り起こしに努めること。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により計画どおりに活動できていない継続地区においても状況の把握に努め、活動内容の変更など適宜対応すること。	・機会あるごとに事業の説明を行い、地域の多様な資源を活かした地域住民による主体的な取組を支援できるよう努める。 ・支援地区において新型コロナウイルス感染症の影響により計画どおりに活動が進まない場合など、計画の進捗を適宜把握し、当該年度計画の活動内容の見直しなど柔軟に対応する。	
②	人材育成	・新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、予定していた研修を概ね開催できている。引き続き感染対策を徹底した上、人材育成に効果的な研修のテーマなどを検討すること。 ・指導員の委嘱は今後も幅広い人材発掘に努めること。	・研修会等は引き続き必要に応じオンラインも併用し、研修機会を確保するよう努める。研修のテーマについてはふる水事業の推進に効果的なテーマ、議題、講師などを考慮し、開催する。 ・指導員委嘱については関係機関とも連携の上、現地研修会時に直接説明するなど、積極的に人材の発掘に努める。	
③	推進事業	・おおむね計画どおり実施されている。今後も事業のPRに努めること。	・事業の成果や農業・農村が持つ多面的機能の役割が広く道民に理解され、住民意識の向上や道内各地における住民活動が活発化するよう、情報誌発行のほか、事業の制度説明や活動事例の提供を随時行う。	

資料 ３

令和５年度（2023 年度）
北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業計画(案)

１　地域活動支援事業

（１）実践活動地区（３地区、括弧は年次）

本別町本別地区（３）、オホーツク広域地区（３）、洞爺湖町財田地区（２）

（２）住民意識醸成地区

新規地区（２地区程度を掘り起こし）

２　研修事業

（１）指導員の委嘱（随時）

（２）全国研修（未定）

（３）地域づくり研修会（２月中旬　札幌市）

（４）現地研修（道央・胆振　8 月 29～30 日）

（道東・根室　10 月中旬）

（５）北海道ふるさと・水と土指導員会幹事会（５月 18 日、２月中旬　札幌市）

（６）北海道ふるさと・水と土指導員会（２月中旬　札幌市）

（７）振興局・ブロック別会議　道央：胆振（現地研修と同時開催）

道南：檜山（11 月）

道北：上川（8 月１～２日）

道東：根室（現地研修と同時開催）

（８）情報誌「里づくり」の発行　２回（７月、12 月）

（９）メルマガ「里づくり通信」の配信　隔月

３　推進事業

（１）委員会の開催　２回（６月、３月）

（２）活動地区との意見交換

（本別地区、オホーツク広域地区）

（３）ホームページの更新

①　指導員名簿

②　事業紹介、委員会記録及び活動実績等の情報

（５）啓発普及

「新・田舎人」（116～119 号）の配布

令和５年（2023年）度現地研修開催概要

１　開催趣旨

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業に係る研修計画に基づき、指導員等の資質向上を図るため、地域づくりの先進地でその活動を体感し、情報交換等を通じて地域支援の実践と地域づくりに対する一層の意識醸成を図ることを目的とし、開催する。

２　研修場所

厚真町、洞爺湖町

３　研修日程及び行程

（１）　日程　令和５年（2023年）８月２９日（火）～３０日（水）

（２）　行程　別紙のとおり

４　移動手段及び旅費等

（１）　原則行程のとおり、５日の集合及び６日の解散はどちらも「南千歳駅」となり、研修中は借上バスでの移動となります。ただし、道南から参加された方は、「洞爺湖駅」で解散となります。
自宅から駅までの往復は、各自、公共交通機関等を手配願います。

（２）　北海道ふるさと・水と土指導員には、当該研修に係る旅費を北海道職員等の旅費に関する条例に基づき支給し、事前に申し出があった口座へ研修終了後に振り込みます。

５　その他

（１）　集合場所

南千歳駅（千歳市平和）

（２）　宿泊所

「洞爺　湖畔亭」

（虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉７-８）

令和5年度 【ふる水】道央・道南ブロック 現地研修会 日程表 （案）

2023年6月12日 現在

（指導員）
道央ブロック　2 名（うち胆振　2名）
道南ブロック　名
（委員会）
委員　名
（道庁）
農政部農村設計課　名
〇〇振興局　名
胆振総合振興局　3 名　計　5 名

月	日	曜	発 場所	発 時刻	乗り物	乗り物 所要時間	着 場所	着 時刻	行事 内容	行事 所要時間	行事 場所	備考
8	29	火	南千歳駅	13:00	借上バス	1:00	厚真町内	14:00	被災地研修（厚真町土地改良区　尾谷参事）	1:00	厚真町富里	32
			厚真町内	15:00	借上バス	2:30	洞爺湖町温泉	17:30	宿泊・夕食		洞爺湖町温泉	139
8	30	水	洞爺湖町温泉	9:00	借上バス	30	洞爺湖町財田	9:30	財田現地研修（洞爺湖町　村上主幹）	1:00	洞爺湖町財田	17.3
			洞爺湖町財田	10:30	徒歩	10	財田体験ハウス	10:40	講演会①（洞爺湖町　塩田　氏）	0:50	財田体験ハウス	7.4
			財田体験ハウス	11:30			財田体験ハウス	11:30	グループ討議・閉会	0:30	〃	
			財田体験ハウス	12:00			財田体験ハウス	12:00	昼食（財田米（弁当））	1:00	〃	
			財田体験ハウス	13:00	借上バス	35	洞爺駅	13:00	（一部解散）	1:00	水の駅経由	19
			洞爺駅	14:00	借上バス	2:00	南千歳駅	16:00	（解散）			120

資料ー4

令和５年度　北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業　事業スケジュール（案）

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
研修事業	道主催の研修		第1回 幹事会 (札幌)			現地研修 （道央 胆振）		現地研修 （道東 根室）				第2回 幹事会 （札幌） 地域づくり研修会 （札幌） 指導員会 （札幌）	
			振興局・ブロック別会議（道央・道南・道北・道東）										
	他主催の研修						全国研修 （東京） ※未定						
	情報誌等の発行				里づくり 26号					里づくり 27号			
			メルマガ「里づくり通信」（隔月、随時）										
推進事業	委員会			第1回 委員会									第2回 委員会
	活動地区と委員との意見交換会						オホーツク広域地区・本別地区						
	その他				新・田舎人 116号		新・田舎人 117号			新・田舎人 118号			新・田舎人 119号
その他											農水省 ふる水基金 全国担当者 会議 ※未定		

令和5年度（2023年度）中山間ふるさと・水と土保全対策事業予算

（単位：千円）

	区　分	分類	R5予算額（当初）	R4予算額（当初）	R4実績額
		由仁地区		437	311
		本別地区	1,210	1,242	183
		オホーツク広域地区	1,162	1,111	660
		財田地区	1,000	1,000	1,000
		新規採択地区	2,874	2,455	163
	小　計		6,246	6,245	2,317
2	研修事業費	地域づくり研修会、指導員会	1,661	1,432	2,233
		現地研修	2,992	3,215	1,134
		情報誌等	333	333	185
		全国研修会	474	474	431
		振興局・ブロック別会議	1,341	1,343	273
	小　計		6,801	6,797	4,256
3	推進事業費	委員会	477	482	74
		現地調査等	74	74	878
		啓発活動	802	802	441
	小　計		1,353	1,358	1,393
合　　計			14,400	14,400	7,966

資料４

地域活動支援事業

令和４年度（2022年度）事業実績及び
令和５年度（2023年度）活動計画

別記様式第2号

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業　活動計画　　【オホーツク総合振興局】

市町村名	美幌町、網走市、小清水町、津別町、大空町、北見市、滝上町	活動地区名	オホーツク広域	活動団体名	オホーツク農村ツーリズム連携会議
活動の目標	・活動参画団体間の意見交換、情報交換を通じ、人材交流を図るとともに担当者の企画運営力のスキルアップをめざす。 ・各地域の個性や特性を活かして取組んでいる活動参画団体の各種事業を有機的に構成し、旅行者に提供する体制を整え、オホーツク地域圏での長期滞在者増加を促進する。 ・地域間の連携を深め、地域住民の参加や協力を得ながら、体験型観光の広域的な受入体制及び教育旅行の広域的な受入体制を構築し、新たな集客を図り地域の活性化を図る。				

活動の方向	No	活動の目的	活動の内容	目標（数量・定性）
	①	・広域連携の必要性、優位性についての意思統一 ・各団体間の協力体制の強化 ・広域連携による具体的な仕組み、商品の開発	・連携会議の運営、幹事会・部会の開催 ・各団体の取組みを知り広域連携体制の構築を図る ・地域住民の協力拡大に向けた研修会等の開催	・幹事会、部会開催回数　年4回 ・各団体を訪問する現地研修会開催回数　年1回 ・地域住民対象の研修会回数　年1回
	②	・インバウンド、FITに対応した広域連携による農山漁村活用型の体験コンテンツ造成とガイド人材の育成 ・教育旅行に対応した体験型コンテンツ造成及び異業種連携による受入体制の構築	・インバウンド、FIT対応型広域連携による体験コンテンツツアーの試験実施 ・ガイド育成、ガイドレベル向上を図る講習会等の開催 ・教育旅行における体験型コンテンツの試験実施 ・異業種間連携の意識醸成を図るセミナーの開催	・体験型コンテンツモニターツアー実施（インバウンド、FIT、教育旅行）　年2回 ・ガイド育成講習会の開催　年2回 ・異業種間連携強化のためのセミナー開催　年1回
	③	・管内広域連携による教育旅行受入体制の拡大 ・教育旅行受入体制の整備	・農業体験時に必要な長靴、ツナギ服を確保し、受入体制の充実を図る ・先進事例を学ぶ研修会等を開催し、受入農家の拡大と推進態勢の強化を図る	・受入地域の拡大　2団体　→　5団体 ・地域間連携による教育旅行受入実施

3年間の活動プロセス	関連No	令和4年度 内容	令和4年度 予算額	令和4年度（変更） 内容	令和4年度（変更） 予算額	令和5年度 内容	令和5年度 予算額
	①	・各団体を訪問する現地研修会（1回） ・地域住民参加型の研修会開催（1回） （小計）	・16千円 ・56千円 （72千円）	・各団体を訪問する現地研修会（1回） ・地域住民参加型の研修会開催（1回） （小計）	・0円 ・0円 （0円）	・各団体を訪問する現地研修会（1回） ・地域住民参加型の研修会開催（1回） （小計）	・16千円 ・56千円 （72千円）
	②	・野鳥ガイド育成講習会（5回） ・広域野鳥観察モニターツアー（2回） ・ツアーパンフレット作成 ・体験型コンテンツ開発に係わる意見交換会（1回） ・教育旅行ニーズ調査（1回） （小計）	・40千円 ・160千円 ・100千円 ・110千円 ・110千円 （520千円）	・野鳥ガイド育成講習会（2回） ・広域野鳥観察モニターツアー（2回） ・ツアーパンフレット作成 ・体験型コンテンツ開発に係わる意見交換会（1回） ・教育旅行ニーズ調査（1回） ・スコープ用三脚 （小計）	・11,660円 ・195,309円 ・0円 ・29,800円 ・110,000円 ・36,300円 （383,069円）	・教育旅行ニーズ調査（1回） ・体験コンテンツモニターツアー開催（連携機関のガイドが造成したコンテンツ） ・体験コンテンツエリアマップ作成 （小計）	・75千円 ・340千円 ・160千円 （575千円）
	③	・教育旅行受入用長靴（26足） ・体験型コンテンツ開発に係わる意見交換会（1回） ・教育旅行ニーズ調査（1回） ・教育旅行推進研修会（1回） ・教育旅行モニターツアー（バス借上料） （小計）	・58千円 ・110千円 ・110千円 ・102千円 ・140千円 （520千円）	・教育旅行受入用長靴（0足） ・体験型コンテンツ開発に係わる意見交換会（1回） ・教育旅行ニーズ調査（1回） ・教育旅行推進研修会（1回） ・教育旅行モニターツアー（バス借上料） （小計）	・0円 ・29,800円 ・110,000円 ・137,409円 ・0円 （277,209円）	・教育旅行ニーズ調査（1回） ・教育旅行推進研修会（1回） ・教育旅行誘客推進意見交換会（1回） ・教育旅行モニターツアー（バス借上料・2回） （小計）	・75千円 ・119千円 ・112千円 ・210千円 （516千円）
	合計		1,112千円		623,978円		1,163千円

活動団体構成員 ※各協議会の構成員は別紙のとおり	美幌町	美幌町地域おこし協力隊（個人）	(株)TAISHI（道の駅 ぐるっとパノラマ美幌峠）	小清水町観光協会
	オホーツク農山漁村活用体験型ツーリズム推進協議会（※）		津別町役場	大空町有機農業推進協議会
	北見市農泊推進協議会（※）	滝上町観光協会		
関係機関・団体	農林水産省北海道農政事務所北見	国土交通省北海道運輸局北見運輸支局		
連携・協力機関・団体	株式会社農協観光北見支店			

別記様式第3号

令和5年度　北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
地域活動支援事業実施計画

【オホーツク総合振興局】

市町村名	美幌町、網走市、小清水町、津別町、大空町、北見市、滝上町	活動地区名	オホーツク広域
活動団体名	オホーツク農村ツーリズム連携会議		

関連No.	内容	項目（費目）	金額（円）	積算根拠
①	・各団体訪問、現地研修会開催	11_役務費	16,000	（体験料）@1,600円×10名
	・地域住民参加型研修会開催	07_報償費	26,000	（講演料）@13,000円/時×2時間×1回
		08_旅費	25,000	（道内1泊2日）@25,000円/回×1回
		13_使用料及び貸借料	5,000	（会場使用料）@5,000円/回×1回
小計			72,000	
②	・教育旅行ニーズ調査	11_役務費	75,000	@150,000円×1回/2部会折半
	・体験コンテンツモニターツアー開催	08_旅費	60,000	（道内1泊2日）@30,000円×1回×2名
		10_需用費	80,000	ワイヤレスガイドシステム
		10_需用費	110,000	双眼鏡
		13_使用料及び貸借料	10,000	（会場使用料）@5,000円/回×2回
		13_使用料及び貸借料	80,000	（バス代）@80,000円/回×1回
	・体験コンテンツエリアマップ作	12_委託料	160,000	デザイナー委託料、印刷費
小計			575,000	
③	・教育旅行ニーズ調査	11_役務費	75,000	@150,000円×1回/2部会折半
	・教育旅行推進研修会（1回）	07_報償費	44,200	（講演料）@13,000円/時×1.7時間×2名×1回
		08_旅費	54,000	（道内1泊2日）@27,000円×2名×1回
		10_需用費	20,240	牛乳:@71円×80個＋含蜜糖:@182円×80袋
	・教育旅行誘客推進意見交換会（1回）	07_報償費	52,000	（講演料）@13,000円/時×4時間×1名×1回
		08_旅費	60,000	招聘専門家旅費交通、宿泊費（2泊3日　@60,000円×1名）
	・教育旅行モニターツアーバス借上料（2回）	13_使用料及び貸借料	210,000	@35,000円/1台×2台×3日
小計			515,440	
合　計			1,162,440	
費目計		07_報償費	122,200	
		08_旅費	199,000	
		10_需用費	210,240	
		11_役務費	166,000	
		12_委託料	160,000	
		13_使用料及び貸借料	305,000	

別記様式第4号

令和4年度　北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
実践活動の評価・検証結果

【オホーツク総合振興局】

市町村名	美幌町、網走市、小清水町、津別町、大空町、北見市、滝上町	
活動地区名	オホーツク広域	
活動団体名	オホーツク農村ツーリズム連携会議（教育旅行部会）	
活動実績の当初・変更計画との比較	当　初・変 更	実　績
	・教育旅行受入用長靴（26足） ・教育旅行ニーズ調査（1回） ・教育旅行推進研修会（1回） ・教育旅行モニターツアー（バス借上料）	・教育旅行受入用長靴（0足） ※コロナウイルス感染拡大の影響で集客が見込めないことから購入を中止した。 ・教育旅行ニーズ調査（1回） ※ニーズ調査開催実績：別紙のとおり ・教育旅行推進研修会（1回） ・教育旅行モニターツアー（中止） ※R4.8月、大阪府内の高校を受入して開催を予定していた教育旅行モニターツアーは新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮して学校側判断により中止となった。
活動の課題	教育旅行ニーズ調査の開催（参加団体：4市町）により昨今の旅行需要や旅行会社、顧客のニーズを確認出来たことから今後、当該地域で顧客ニーズに対応したコンテンツ作り、体制構築が必要であることが確認できた。また、教育旅行推進研修会の開催により先進地域（2地域）での活動状況や課題、今後の事業展開等も学ぶことができたことから当該地域で今後どのように事業展開すべきなのか検討を深める必要があることを再認識した。	
次年度の活動方向（活動の改善点等）	教育旅行ニーズ調査の開催により旅行会社との繋がりや意見情報交換の重要性が認識できたことから次年度も開催して今後の集客力向上に努めたい。教育旅行推進研修会の開催により先進地域の実績や受入手法を学ぶ必要性が再確認できたことから次年度も開催して受入体制の充実化を進めたい。教育旅行誘客推進意見交換会の開催については、北海道教育旅行大使（北海道観光振興機構任命）入江祥史氏（現役高校教諭）を6月に招聘し、学校誘客についてのアドバイスを受けて教育旅行関係の学校誘致に繋げたい。	
活動状況写真（別添可）	教育旅行推進研修会（R4年6月29日）開催の様子 	
総合振興局等から見た活動地区及び活動団体の状況	・コロナ渦により、教育旅行受入用長靴の購入と教育旅行モニターツアーが中止となったが、計画していた教育旅行ニーズ調査と教育旅行推進研修会を実施し、手応えを感じられた。R5年度も引き続き熱心な活動が期待できる。	

別記様式第4号

令和4年度　北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
実践活動の評価・検証結果

【オホーツク(総合)振興局】

市町村名	美幌町、網走市、小清水町、津別町、大空町、北見市、滝上町	
活動地区名	オホーツク広域	
活動団体名	オホーツク農村ツーリズム連携会議(体験コンテンツ部会)	
活動実績の当初・変更計画との比較	当　初・変 更	実　績
	①野鳥ガイド育成講習会 (5回(5日)) ↓ (2回(4日))に変更	・広域連携の体験コンテンツ造成、共通のテーマに沿ったガイド育成を考慮し、北海道内でも有数の野鳥生息地域となっているオホーツクエリアの特性を活かし、野鳥観察を通して地域の特産品や歴史文化をガイディングできる人材の育成を昨年に引き続き行った。講師は小清水観光協会事務局長・湯浅氏の協力を仰いだ。 ・4/23,24については網走市の呼人探鳥遊歩道にて開催。育成ガイドがそれぞれ準備をし、お客役とガイド役に分かれ案内する形で試験的に行った。またオホーツク管内の見どころについて案を出し合い、モニターツアーに向けての開催場所の選定を行った。 (参加者したガイド:4/23(5名)、4/24(6名)) ・5/14は小清水町オホーツクの森、とうふつ湖平和橋付近、網走市バイラギ川沿いの3地点にて育成ガイドがそれぞれガイド準備を行い、お客役とガイド役に分かれ案内を試験的に行った。 5/22も北見市の金毘羅桜公園、大空町の網走湖女満別湖畔にて育成ガイドがそれぞれガイド準備を行い、お客役とガイド役に分かれ案内を試験的に行った。 (参加者したガイド 5/14(7名)、5/22(10名)) ・今年度の野鳥ガイド育成講習会は、育成ガイドが実際にガイディングを行っての講習会となり、それぞれが準備した内容からもガイドの能力の向上を感じられる内容となった。
	②広域野鳥観察モニターツアー (全2回)	6/11,12　北見市ワッカ原生花園と大空町網走湖女満別湖畔野営場にて広域野鳥観察モニターツアーを開催した。ワッカ原生花園では2～3名の育成ガイドがそれぞれが準備した観察できる野鳥の情報を写真やイラストなどでまとめた案内ツールを作成し、振興局やモンベル、網走バスなどの観光事業者向けにガイディングを行った。 (参加者:12名:育成ガイド4名、事務局他4名、振興局4名) 7/15 滝上町スタートで上川町の浮嶋湿原にて広域野鳥観察モニターツアーを開催した。各市町村で活躍する野鳥ガイドを目指し育成したガイドが、日本野鳥の会オホーツク支部副会長の小山内氏をガイド講師にお招きしアドバイスを仰ぎながらモニターツアー内でガイド役とお客様役を担う形にして開催した。 (参加者13名:育成ガイド9名、事務局2名、振興局2名)。
	③ツアーパンフレット作成費、広告費	コロナが落ち着き、急激に集客が増えたことにより年明けからの本業の受け入れが急増し打ち合わせ時間などの不足から作成を断念した。
	④体験型コンテンツ開発に係わる意見交換会(1回)	12/19,20,21　公益財団法人日本修学旅行協会・常務理事　高野満博氏をお招きしての教育旅行の受入現場視察及び意見交換会と講話会を開催。 ・美幌町、津別町の教育旅行受け入れ生産者などとの意見交換会、現場視察を行った。最終日の21日には網走市Connectripを会場に昨今のコロナ禍、アフターコロナでの教育旅行のニーズ動向などについてお話を伺った。
活動の課題	・7市町村の様々な自然環境を活用した野鳥ツアーの実施に向けて広域で育成した野鳥ガイドについては知識や接客対応の他、ガイディングツールの作成など各ガイドのスキルが上がり実際のツアー化が現実味を帯びてきたと言える。今後の課題は集客できる旅行エージェントとの情報交換の場や情報発信を重点的に行っていく必要があると考える。	
次年度の活動方向 (活動の改善点等)	2023年度の最終年度には当初の予定通り育成ガイドによる野鳥のモニターツアーを実施し様々な市町村の持つ食や体験コンテンツを織り交ぜた新しいツアーの造成につなげたい。	
活動状況写真 (別添可)	①野鳥ガイド育成講習会の開催　4/23,24　網走市呼人半島会場 	

①野鳥ガイド育成講習会の開催　5/14,5/22　小清水町オホーツクの森会場等

②広域野鳥観察モニターツアーの開催（全2回）
6/11,12　北見市ワッカ原生花園と大空町網走湖女満別湖畔野営場会場

②広域野鳥観察モニターツアーの開催（全2回）
7/15　浮嶋湿原野鳥観察のモニターツアー

	④体験型コンテンツ開発に係わる意見交換会（美幌町、津別町、網走市）・教育旅行ニーズ調査（1回）
総合振興局等から見た活動地区及び活動団体の状況	・野鳥を軸としたガイドと関連するコンテンツを順調に増やしてきており、R5年度は他のコンテンツと連動させるなど、更なる活動の充実が見込まれる。

別記様式第２号

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業　活動計画　【十勝総合振興局】

市町村名	本別町	活動地区名	本別地区	活動団体名	ほんべつ☆うきうき未来らぼ
活動の目標	各種団体に属さず地域活動に参加できていなかった住民同士の繋がりを創出し、コミュニティを形成する。そこから老若男女を問わず皆で地域における課題を抽出し、解決に向けた具体的な行動を起こし、住民一丸となって地域の活性化と未来に向けた持続可能なまちづくりを目指す。				

活動の方向	№.	活動の目的	活動の内容	目標（数量・定性）
	①	住民同士の繋がりを創出し、地域における連携、協力体制を強化する。住民主体の持続可能なまちづくりに向け意識を醸成する。	◆ ほんべつ☆うきうき未来らぼミーティング ◆ 住民主体のまちづくりに向けた研修会	◆ ミーティング開催 （6回/年） ◆ まちづくり研修会開催 （1回/年） ◆ 幅広い地域住民の参加と意識の共有（随時） ◆ 先進地視察による勉強会の実施（1回/年）
	②	関係人口の増加や移住者等とのコミュニティを形成し、都市と地域や地域内での交流を進める。	◆ 体験イベントをもとに町内外の方との交流を深める。 ◆ 移住されてきた方等を紹介カードにて発信し地域内での活動を紹介、応援する。 ◆ 新たな発想で町内スポットを巡礼地化し、発信・集客を目指す。	◆ 移住者交流イベントの開催（1回/年） ◆ イベント用ユニフォームの製作（1回/年） ◆ 紹介カード作成・配布（3名/年） ◆ 何かの巡礼地化を検討し、スポット探し・発信を行う（1回/3年）
	③	新たな観光資源を発掘・発信することによって町内の魅力を多くの方々に知ってもらう。	◆ 町内の自然を生かした様々なアクティビティーの検討開発 ◆ 発掘したアクティビティーの体験会の開催 ◆ 実証に向けた体制の検討	◆ 先進地視察、各アクティビティー専門家の講演（1回/年） ◆ 発掘アクティビティーの体験会の開催（1回/年）
	④	子供たちと本別だから出来る事の体験活動や地域学習を通して郷土愛を育てる。	◆ 子供たちが町を一度離れても戻ってきたいと思ってもらえるような活動をする。 ◆ 特産物での食育体験や屋外活動体験	◆ 地元産食材（豆・小麦など）を使用した食育体験・メニュー開発（1回/年） ◆ 屋内外スポーツ体験等の実施（1回/年）
	⑤	地元食材のアピールや町民・学生と連携したフードロス対策への取組を行う。	◆ 地元産食材を活用した調味料（万能タレ）の試作・開発 ◆ 試食会・アンケート収集により地域での『このみ』の調査 ◆ 地域食材の可能性のリサーチ、食育推進計画作成検討	◆ 試作品開発会の実施（3回/年） ◆ 試作品試食会・広報・アンケートの実施（1回/年） ◆ 食育推進計画作成の検討会議の実施（2回/年）
	⑥	各活動の情報発信を行うことによって町内外への認知度を高める。	◆ 各活動担当者からの活動報告をSNS等にて発信する。 ◆ 情報収集により各活動担当者への情報提供を行う。 ◆ クリエーター等と協力して幅広い発信にてアピールする。	◆ チラシ・SNS等への掲載・アップロード（随時） ◆ 町内外の様々な情報の収集・情報提供（随時） ◆ アートを活用しての発信の検討会実施（1回/年）

3年間の活動プロセス	関連№.	令和４年度		令和４年度（変更）		令和５年度	
		内容	予算額	内容	予算額	内容	予算額
	①	全体ミーティング	0千円	全体ミーティング	0千円	全体ミーティング	0千円
	①	まちづくり研修会	58千円	まちづくり研修会	27千円	まちづくり研修会	58千円
	①	先進地視察	356千円	先進地視察	0千円	ユニフォーム制作	210千円
	②	街コンイベント	130千円	街コンイベント	0千円	交流イベント開催	70千円
	②						
	②	紹介カード作成	30千円	紹介カード作成	0千円	紹介カード作成	270千円
	③					講演・体験会	104千円
	③	アクティビティー体験会	160千円	アクティビティー体験会	68千円	川のごみ拾い	48千円
	④	食育体験	86千円	食育体験	24千円	食育体験	60千円
	④	講演会	36千円	講演会	29千円	ワークショップ体験	20千円
	④	企業見学	26千円	企業見学	0千円	写真・イラスト展	30千円
	④	写真展	30千円	写真展	0千円	食育メニューレシピ集制作	50千円
	⑤	試作品開発	120千円	試作品開発	11千円	試作品開発	100千円
	⑤	試作品試食会	30千円	試作品試食会	0千円	試作品試食会	50千円
	⑤	食育推進計画検討会議	0千円	食育推進計画検討会議	0千円	食育推進計画検討会議	
	⑥	広報チラシ	180千円	広報チラシ	0千円	広報チラシ	140千円
	⑥	アート活用検討会	0千円	アート活用検討会	0千円		
	合計		1,242千円		159千円		1,210千円

関係機関・団体	本別町役場		
連携・協力機関・団体	本別町観光協会	本別町農業協同組合・青年部・女性部	道立農業大学校
	本別町商工会・青年部・女性部		

別記様式第３号

令和５年度北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業　地域活動支援事業実施計画

【十勝総合振興局】

市町村名	本別町	活動地区名	本別地区
活動団体名	ほんべつ☆うきうき未来らぼ		

関連No.	内容	項目(費目)	金額(円)	積算根拠
	まちづくり研修会、 全体ミーティング	07_報償費 08_旅費	28,000 30,000	14,000円×2時間 札幌～本別 1泊2日
	イベント用ユニフォーム作成	10_需用費	210,000	3,500円×60枚
小計			268,000	
②	交流人口イベント開催	10_需用費 13_使用料及び賃借料	60,000 10,000	A1ポスター1500円×30枚 音響スピーカー等１式
	紹介カード作成	10_需用費	270,000	配布カード300円×900枚
小計			340,000	
③	フライフィッシング講演・体験会	07_報償費 08_旅費 13_使用料及び賃借料	26,000 6,000 32,000	13,000円×2時間 更別～本別 カヌー等の使用料
	デイキャンプ体験会	10_需用費	40,000	材料費等
	川のごみ拾い	10_需用費	48,000	ウェダー8000円×6
小計			152,000	
④	食育体験	07_報償費 10_需用費 08_旅費	40,000 15,000 5,000	5,000円×2時間×4回 材料費等 旅費
	職場体験（ピザ作り）	10_需用費	20,000	材料費等
	写真イラスト展	10_需用費	30,000	印刷代
	食育メニューレシピ集	10_需用費	50,000	50冊×1000円
小計			160,000	
⑤	試作品開発	10_需用費 13_使用料及び賃借料	90,000 10,000	材料費等 会場費
	試作品試食会	10_需用費 13_使用料及び賃借料	40,000 10,000	材料費等 会場費
小計			150,000	
⑥	広報チラシ	10_需用費 11_役務費	100,000 40,000	印刷代 折込代
小計			140,000	
合計				
		07_報償費 08_旅費 10_需用費 11_役務費 12_委託費 13_使用料及び賃借料	94,000 41,000 973,000 40,000 0 62,000	
			1,210,000	

別記様式第４号

令和４年度　北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業実践活動の評価・検証結果

【十勝総合振興局】

市町村名	本別町	
活動地区名	本別町	
活動団体名	ほんべつ☆うきうき未来らぼ	
活動実績の当初・変更計画との比較	当　初・変　更	実　績
	研修会・先進地研修・イベント 紹介カード アクティビィティー体験会 企業見学・写真展 その他予定事業 タレ試作会・試食会 情報発信	コロナ等なかなか集まれず中止 予算タイミング合わず自主作製 遠征せず町内河川キャンプ場にて開催 学校側とコロナで時期調整できず中止 おおむね開催できた。 試作会３回しか開催できなかった 少しはSNSフォロワーが増えた。
活動の課題	・コロナ渦の影響を引きずっており開催できない事や変更が多かった。 ・集まれない期間が多くメンバーの気持ちが保てなかった。 ・天候の影響による日程調整の難しさがあり、自然相手だとクオリティーのばらつきが出てしまう ・募集の連絡先等個人になってしまうのが課題と感じた。 ・タレ試食会が集まれず開催できなかった。 ・活動が少なく情報発信が少なかった。	
次年度の活動方向（活動の改善点等）	・コロナが落ち着きだしているので計画したものは積極的に開催していきたい。 ・登録メンバーや新メンバーも含め再度組織つくりを行っていく。 ・予算使用のためには計画を早め早めで行っていく。 ・フィッシング体験は引き続き行っていき、加えてキャンプやごみ拾いも行う ・食体験の集大成としてレシピ集の作成を行う。 ・タレ商品化に向けて試食会(イベント参加等）を開催し、委託先を探す。 ・SNSを使用して各らぼの発信や企業紹介を途切れないように行う。 	
活動状況写真（別添可）		
総合振興局等から見た活動地区及び活動団体の状況	・年度の前半については、新型コロナウイルス感染拡大によるイベントの延期もあったが、昨年に比べるとイベントを実施することができ、来年度の活動に向けてメンバー同士で前向きな話し合いができていた。 ・ミーティングや、活動時は活発に話し合いながら、雰囲気良く実施できていると感じた ・今後は、新型コロナウィルスの状況を見ながら、メンバー外も参加できるイベント等の活動を進めてもらいたい。	

活動状況写真

【全体ミーティング】

【アクティビティー体験会」

【試作品開発】

【食育体験（みそ作り）】

【食育体験（ぎょうざ作り）】

別記様式第2号

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業　活動計画　　【胆振総合振興局】

市町村名	洞爺湖町	活動地区名	財田地区	活動団体名	財田米ブランド推進委員会
活動の目標	当地区で生産されている財田米について学ぶ機会を設け、近隣地域住民や子供たちの地域産業に対する理解の醸成を図る。また、先人たちが築き上げてきた「財田米」への誇りや愛着を育むことで生産者の意欲向上と集落機能の維持につなげる。 財田米の付加価値向上に向けた取組とPR活動を行い、認知度及び地域ブランド力の向上や顧客満足度の上昇、洞爺湖町への観光客の入り込み増を目指し、地域の活性化につなげる。				

活動の方向	No	活動の目的	活動の内容	目標（数量・定性）
	①	・財田米の啓蒙活動による付加価値向上への取り組み ・財田米の地産地消への取り組み	・HP、ポスター、パンフレット等活用によるPR ・プロモーションビデオの製作 ・地元女性を講師に財田米に合う惣菜（おかず、ご飯のお供）研修会開催と消費者へのメニュー配布	・HPの開設、SNSの更新（随時） ・ポスター作成　必要に応じて計上 ・パンフレット、ステッカー作成　必要に応じて計上 ・財田米に合う料理研修会開催　1回／年
	②	子供から大人までを対象とした食育の展開による地産地消活動を推進し、財田米に対する理解の醸成を図る	・地元小学生や園児を対象とした食育活動（田植え、稲刈り体験等）	・体験学習　2回／年
	③	財田米の安定販売に向けた認知度向上への取り組み	・都市部での認知度向上のためのPR活動 ・地域イベント（洞爺湖マラソン、大収穫祭等）を活用した試食会等の開催	・都市部での認知度向上のためのPR事業　1回／年 ・試食会の開催　2回／年

3年間の活動プロセス	関連No	令和4年度		令和4年度（変更）		令和5年度	
		内容	予算額	内容	予算額	内容	予算額
	①	・HPの開設 ・ポスター、パンフレット、ステッカー等作成	980千円	・HPの開設 ・ポスター、パンフレット、ステッカー等作成	1,000千円	・パンフレット、ステッカー等増刷 ・地元女性を講師に財田米に合う惣菜等の研修会開催	・380千円 ・50千円 ・10千円
	②	・地元小学生や園児を対象とした食育活動（田植え、稲刈り体験等）	20千円	・地元小学生を対象とした食育活動（田植え、稲刈り体験等）	0円	・地元小学生や園児を対象とした食育活動（田植え、稲刈り体験等）	0円
	③			・都市部での認知度向上のためのPR活動（※農業農村ふれあいフェスタin赤れんが）	0円	・都市部での認知度向上のためのPR活動 ・地域イベントを活用した試食会等の開催（洞爺湖マラソン、ツーデーマーチ、収穫祭etc）	・260千円 ・300千円

関係機関・団体	洞爺湖町役場	胆振農業改良普及センター	洞爺湖町教育委員会	洞爺湖町観光協会
連携・協力機関・団体	とうや湖農業協同組合			

別記様式第3号

令和5年度　北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
地域活動支援事業実施計画

【胆振総合振興局】

市町村名	洞爺湖町	活動地区名	財田地区
活動団体名	財田米ブランド推進委員会		

関連No.	内容	項目(費目)	金額	積算根拠
①	・財田米PRに向けたパンフレット、ステッカー等の作成 ・財田米に合う惣菜(おかず、ご飯のお供)研修会開催	11_役務費	80,000	PR用ステッカー印刷代 (1枚単価8円×10,000枚)
		11_役務費	300,000	PR用パンフレット印刷代 (1枚単価10円×30,000枚)
		10_需用費	50,000	研修会用の財田米買上げ費用 (ゆめぴりか4,000円/10kg×5袋)、 総菜用の材料費(30,000円計上)
		07_報償費	10,000	講師1名分　1日10,000円
③	・地域イベントを活用した試食ブースの設置	10_需用費	90,000	イベント用の財田米買い上げ費用 2回分(ゆめぴりか4,000円/10kg×6袋、 ななつぼし3,500円/10kg×6袋)×2回
		10_需用費	170,000	法被(8,000円×5着)・ のぼり(6,500円×20本) の作成費用
③	都市部での認知度向上のためのPR活動	11_役務費	300,000	PR用パンフレット印刷代 (1枚単価10円×30,000枚)
合　計			1,000,000	
費目計		07_報償費	10,000	
		08_旅費	0	
		10_需用費	310,000	
		11_役務費	680,000	
		12_委託料	0	
		13_使用料及び貸借料	0	

別記様式第4号

令和4年度　北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
実践活動の評価・検証結果

【胆振総合振興局】

市町村名	洞爺湖町	
活動地区名	財田地区	
活動団体名	財田米ブランド推進委員会	
	当　初・変 更	実　績
活動実績の当初・変更計画との比較	①財田米の啓蒙活動を行う上で基礎となるPR資材の作成 ・HPの開設 ・ポスター、パンフレット、ステッカー等作成 ②財田米における地産地消を図る食育活動を実施 ・地元の小学5年生を対象とした田植え体験(5/24)・稲刈り体験(9/12) ③「農業農村ふれあいフェスタin赤れんが」(※10/1 札幌市)に参加し、都市部でのPR活動を実施	①財田米の啓蒙活動に必要となるPR資材を作成することで ・HPの開設、Facebookの立ち上げによる情報発信を行った。 ・ポスター、パンフレット、ステッカー、のぼり、法被のデザイン委託から作成まで行い、財田米PR活動の基盤づくりができた。 ②地元の小学生へ食育活動を実施することで、地域での「財田米」に対する意識醸成を図った。 ③都市部へのPR活動を展開し、地域外での「財田米」の認知度向上の取組を実施した。
活動の課題	・鳥インフルエンザの発生を理由に道(※胆振総合振興局)における各種契約事務が滞ったため、財田米の新米販売に合わせた時期にパンフレットやステッカーの不足に陥り、十分なPR活動が実施できなかった。北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業における事務執行に対する認識が浅かったところもあるが、道(※胆振総合振興局)の担当者との調整が不足していたと認識している。	
次年度の活動方向(活動の改善点等)	・PR資材の発注については道(※胆振総合振興局)の担当者と十分協議の上、活動内容の認識を共有し事業展開を図りたい。特に汎用性が高いパンフレットについては十分に注意したいと考える。 ・予算の都合上、財田米に係る研修会が開催できなかったため、財田米の食味をPRできる機会として開催を図りたい。	
活動状況写真(別添可)	別添資料のとおり	
総合振興局等から見た活動地区及び活動団体の状況		

『財田米ブランド推進委員会』について

≪令和４年度≫

１　財田米ブランド推進委員会の活動内容

Ｒ４
４／１４　北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会及び道庁農政部との意見交換会
５／　９　ふる水事業に係る会計業務打合せ（胆振農業改良普及センター）
５／１０　ふる水事業に係る胆振総合振興農村振興課との打ち合わせ（総合センター）
５／２４　塩田農園所有水田での田植え体験学習（とうや小５年生９名）
６／１５　財田米 PR 事業に係る委託契約業務（普及センターと㈱ネクステージ）
７／　４　財田米ブランド強化に向けた検討会①
８／　１　「洞爺湖町フェア」特別メニューにおける財田米の採用（８月末まで）
８／２２　財田米ブランド強化に向けた検討会②
８／３１　㈱ネクステージとのポスター、パンフレット等の最終案打合せ
９／１２　塩田農園所有水田での稲刈り体験学習（とうや小５年生９名）
９／２８　財田米ブランド推進委員会　塩田会長が下道町長を表敬訪問
１０／　１　農業農村ふれあいフェスタ in 赤レンガでの財田米（新米）PR 即売会

■　**「北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業　洞爺湖町財田地区意見交換会」**

令和４年３月１５日に事業実施承認通知を受け、事業採択が決まりましたが、北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会より「地元農業者、事務局担当職員等と意見交換会を行いたい」との申し出により、令和４年４月１４日に標記意見交換会を開催しました。

意見交換に先立ち、これまでの財田米に関する取組み及び経過、財田米に係る現状を事務局から説明し、財田米ブランド強化を目指した取組みへの理解を求め、さらに出席した農業者からは生産者としての意気込み、付加価値拡大への期待を委員及び道農政部職員へ届けました。委員からは今回の事業認定申請の内容に対する理解は得られたものの、これからの取組みの手法に対する様々なアドバイスを受けました。

●北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会
座長：山本　忠男　…北海道大学大学院農学研究院　准教授（農業土木学研究室）
委員：小西　由稀　…ライター　（「食のつくりびと」、「札幌おささる味手帖」等）
委員：小林　国之　…北海道大学大学院農学研究院　准教授（地域連携経済学）

■　塩田農園所有水田での田植え体験学習（とうや小５年生９名）

令和４年５月２４日、財田にある塩田農園の水田で標記体験学習を開催しました。

とうや小学校５年生９名が参加し、まず、学年代表１名が田植え機に乗り、機械による田植えを体験した後、全員が田んぼに入り手作業による田植えを経験しました。

田植え作業後は塩田満氏へ児童が事前に考えてきた質問をする場面があり、米作りで気を付けていることなどの質問に対して、塩田氏は苗づくりに力を入れ、管理方法も気を使っており、いい苗ができると米は半分はとれたようなもの、と回答していました。

財田米ブランド推進委員会では PR 事業の他、地産地消、食育事業も推進することを検討しており、秋には稲刈り体験学習、来年度は地元住民への周知も兼ねた「ごはんのおとも講習会」なども企画しています。

■　塩田農園所有水田での稲刈り体験学習（とうや小５年生９名）

令和４年９月１２日、春に田植え体験学習を開催した同じ水田で稲刈り体験学習が開催されました。

財田の塩田農園の水田において、前回と同じくとうや小学校５年生９名が稲刈りに参加し、全員が順番で収穫機に乗り、機械を操作して米の収穫を行ったほか、代表者１名が手刈りによる昔ながらの収穫を体験しました。

その後、児童からの質問コーナーで、収穫の際に気を付けていることはと聞かれた塩田満氏は、農作業事故が起こらないように常に気を張っていると回答していました。

塩田満氏は従前より洞爺地区の学校給食に財田米を提供しており、来年度以降も委員会会長として PR 事業と併せ、財田米の地産地消・食育の取組をさらに進めていく予定とのことです。

■　財田米ブランド推進委員会　塩田会長が下道町長を表敬訪問

令和４年９月２８日、財田米ブランド推進委員会　塩田会長が下道町長を表敬訪問しました。

これまで財田ブランド推進委員会において協議を重ね、完成したポスター、パンフレット、ステッカー等の物品、財田米ブランド推進委員会のホームページの立ち上げに際して、洞爺湖町役場本庁舎内の町長室でお披露目しました。

塩田会長は下道町長や報道陣に対して、財田米の魅力や財田米ブランド推進委員会の活動について説明し、また、ステッカーを貼ったゆめぴりか（２kg）、ななつぼし（２kg）を寄贈しました。

■　農業農村ふれあいフェスタ in 赤レンガでの財田米（新米）PR 即売会

令和４年１０月１日、札幌市にある北海道庁旧赤れんが庁舎前で「農業農村ふれあいフェスタ in 赤レンガ」が開催されました。

「北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業」を担当している道庁農政部農村振興局農村設計課より同事業の採択を受けている財田米ブランド推進委員会の他３団体に対して、同イベントへの出展依頼があり、特設ブースにて財田米の PR 即売会を行いました。

当日は、最高気温３０℃の快晴の中で洞爺湖町のパネルによる農業の紹介や財田米のポスターの掲示、パンフレットの配布を通じて財田米の PR 活動を行いながら、塩田農園で準備した新米のゆめぴりか（２kg）、ななつぼし（２kg）を販売し、好評を博しました。

（その他　PR 関連）

■「洞爺湖町フェア」特別メニューにおける財田米の採用

令和４年８月１日～３１日の間、札幌市にあるセンチュリーロイヤルホテルにおいて、令和３年度に引き続き洞爺湖町産の農産物を使った期間限定の特別メニューが提供され、財田米が活用されました。

財田米に関するメニューとして、ディナーでは釜炊きご飯、ランチではライスプディングが提供され、多くの方が財田米を堪能しました。

この特別メニューの提供方法がふるさと納税による体験型返礼品となっており、町外の多くの方が財田米のみならず、洞爺湖町産の野菜等の魅力を楽しめる内容であったことから「洞爺湖町フェア」は好評であった、とのこと。

■「JP01 まつり」における PR 活動

１０月２７日～２８日に札幌市の地下歩行空間において、「JP01 まつり」が開催され、総務課ふるさと納税グループがふるさと納税返礼品の PR と LINE 新規登録者の拡大を目的に出展しました。

ふるさと納税返礼品の PR に財田米が展示されることから、財田米のポスターやのぼり等を貸し出し、PR 活動及び出展の様子の写真提供を依頼しました。

また、LINE に新規登録された方へ抽選で財田米（２㎏×５名もしくはお試しサイズ２合分×２０名分）がプレゼントされました。